

正月に玄関に飾る「しめかざり」は、穂が出る前に刈り取った稲わらを使い、神様を家にお迎えするためにつくられます。昔は、稲刈りの後も稲わらなどを無駄なく利用し、草履、^{ぞうり}蓆、^{むしろ}苞（納豆の入れ物）などの生活用具をつくっていました。稲わらなど里山の恵みは広く利用することができます。

この活動のねらい

お正月の飾りとして欠かせない「しめかざり」をつくることで、日本の米づくりから生まれた伝統的な文化に親しむとともに、手作りの楽しさを味わう。

準備物

- わら 約150本(夏の頃の穂がでる前に刈り取り、よく乾燥させておいたもの)
- 縄またはひも □木づち □わら切りばさみ □丸太 □半紙
- 「かざり」とするもの(ユズリハ、ウラジロ、ダイダイ、ゴヘイなど)

活動内容

1 わらをたたきます。

乾燥させておいたわらを木づちでよくたたき、柔らかくします。

2 わらを編みます。

①わらを約50本ほどきれいにならべたものを2束つくり、わらの太い方（根もと）を丸太などに結んで動かないように固定します。**写真1**

②2つの束を左ねじりで編み込み（左編み）ます。**写真2**

※日常生活で使う縄は「右編み」ですが、しめかざりは特別なので「左編み」にします。

③②で編み込んだものに、もう一束（約50本）足して、ひもでまとめて動かないように固定します。**写真3**

④足した一束を右ねじりで編み込み（右編み）ます。**写真4**

3 わらにかざりをつけます。

編み込んだものに「かざり」をつけます。

4 「しめかざり」を飾ります。

できあがった「しめかざり」をいろいろな場所に飾って楽しみます。



○まとめ ☆発展

○地域によって異なるしめかざりの「かたち」、「かざり」などについて調べてみましょう。

☆わら草履をつくってみましょう。

☆しめかざりを燃やす「どんど焼き」という行事について調べてみましょう。

参考となる本

『たくさんのふしぎ しめかざり』（福音館書店）森須磨子